

## 令和4年度自己評価結果公表シート

社会福祉法人 和孝福祉会 愛泉保育園  
(正規職員 25 名回答)

評価項目	取組状況
I サービスの質の確保	<p>職員全体会議、年齢会議については定期的実施する事ができている。その共有方法について、会議等で共有することをしてきたが、時間捻出などに難しい場面があり、苦労が多かった。ICTツール（チャットワーク）を次年度活用予定。</p> <p>指導者は保育指導などの支えになり、保育内容の定着に尽力した。個人情報管理については、保護者より預かっている書類保管については、保管場所を考慮し、ICTツールのログイン方法などにも工夫をした。</p>
II.発達援助の基本	<p>子どもが安心して過ごせる環境として人的環境を含め、職員が同じ考えを持ちながら保育する事ができた。また、課題点があった時には、クラス担任同士が話し合い、試行錯誤をして最良の方法をとることができた。</p> <p>順番やグループ分けについては、性別で分けることは無かったが、さらに職員が理解ができるような話し合い等をしていきたい。</p>
III.健康管理	<p>乳児は毎月、幼児は各月の身体測定に加え、その情報はCODOMONアプリで保護者と共有できている。また、怪我や体調悪化については保護者に伝えることはできているが、保育中に見過ごして逆に保護者より問い合わせがあることがあった。</p>
IV.食事	<p>コロナ禍で、食事環境の制限が解除されたが、引き続き衛生面についての配慮を続けた。アプリにて給食メニューの配信を毎日行っている。引き続きのコロナ対策により、給食調理者と子どもが関わることができなかった。食事について（アレルギーや離乳食）などの保護者からの相談に乗る事ができた。子どもの体調に合わせて食事を調整したりすることができた。</p>
V.保育環境	<p>設備や用具について、衛生的に管理し、発達に合った玩具や遊具を検討し、用意されている。色々な素材という観点で用意することが足りなかったため、来年度はその観点で保育環境を整えたい。</p> <p>幼児は比較的意識していたが、乳児に関しても、季節が感じられる環境については不足していると考え、整えていきたい。</p>
VI.保育内容	<p>保育内容を高める為に、全職員が研修に参加することができた。オンライン研修を自主研修として行い、同じ方向を向く支えとなっている。外部講師（わらべうた、保育指導）を招き、直接保育の指導を受ける事で、更なる向上があったので、次年度以降も継続を予定。</p> <p>遊びの自主研修が感染症の流行に阻まれ、思うようにいかなかったため、次年度は実施していきたい。</p>

	<p>障害児受け入れが増え、担当保育士だけでなく、その他担当ではない保育士に至るまでの研修が必要と感じているので、実施していきたい。</p>
VII.保護者支援	<p>保護者からの相談や希望にはできるだけ速やかに答えるようなシステムをとっている。不適切保育などの心配にならないように、できるだけ保護者へ園内の様子を発信したり、保育参加を受け入れたりしている。</p> <p>また、全クラスの監視カメラ設置が済んでいる。</p>
VIII.安全・事故防止	<p>小さなけがでも事故報告を保育士が提出する流れとなっている。ヒヤリハットについては全職員が確認できるようになっている。救命救急講習や嘔吐処理研修など、日々の保育に必要な研修については、定例で行うことができた。次年度は不審者対応にのマニュアル作成を関係機関に協力してもらいながら見直しを行っていきたい</p>
X.関係機関及び地域との連携	<p>子育て支援センターを通して、地域子育て世帯の支援を行っている。相談業務や、園庭開放、沐浴講座などがあり、希望者も多い。</p> <p>発達障害支援施設などの園体験などを受け入れたり、在園児に関する療育施設との連携をすることができた。</p> <p>コロナ禍で小学校との連携が一時ストップしている。</p>